

研修名	乳児保育・教育
	平成30年9月25日(火) 10:00~12:30
講演	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領について」
講師	湘南ケア アンド エデュケーション研究所 増田 まゆみ 氏

1、講演要旨

- 1) 保育所保育指針が改定された。
 - ・保育者主動型の保育（一斉保育的な保育）→子どもの主体性を尊重する、子ども一人ひとりの思いを大切にす保育へと変わった。
 - *環境を通しての保育
 - *遊びを通しての総合的な指導 →保育の基本は変わらない
- 2) 乳児・1歳以上3歳未満児保育の重要性について
 - ・アタッチメント・基本的信頼感・自己肯定感が高い→非認知能力・社会情動的スキル（目標を達成する力・他者と協働する力・情動を制御する力）が育まれる。
 - ・十分な探索活動が探求活動（3歳以上）へつながる。
 - ・保育士等が子どものサインを適切に受け取り、子どもの自己選択を促しつつ、受容的、応答的に関わっていくことが大切である。
- 3) 乳児の発達に応じた保育内容について
 - ねらい…保育の目標をより具体化したもの。保育を通じて育みたい資質・能力を、子どもの生活する姿から捉えたものである。
 - 内容…ねらいを達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。
 - ・特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。
 - ・子どもの生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、あたたかく見守ると共に、受容的、応答的に関わる必要がある。
- 4) 緩やかな担当制
 - ・特定の保育者との継続的な愛情深い関わりにより、人への基本的信頼関係を形成する。

(利点)・保育に余裕ができる。

 - ・少人数で関わることで一人ひとりとじっくりと関わるができる。
 - ・家庭的な感覚で過ごせる。

5) 記録をとるポイント

- ①子どもの「しようとする」姿に焦点をあてる
 - ②保育者がどのように子どもを受け止め、関わったかを示す
 - ③具体的なことばや行動から、子どもの変化を保育者がどのように読みとったかを伝える
- 発達の全体像を捉えると共に、発達の連続性をしっかりとおさえることが必要となる。

6) 保育の質を向上するために…暗黙知をいかに可視化・共有していくかが大切である。

2、感想

今回研修を受けて、改めて乳児保育の重要性を強く感じました。また、自分の保育を見つめ直す良い機会となりました。

この研修で特に印象的だったことが2つあります。1つ目は、初めに視聴したDVDでした。何気ない親子のやり取りでしたが、そこから読み取れることはたくさんあり、乳児期のかかわりの大切さを再認識しました。言葉を獲得していない赤ちゃんでも、母親の表情を読み取ったり、声のトーンで感じたりと五感を上手く使って感じ取っていることがわかりました。母親が赤ちゃんに反応しなくなると、赤ちゃんもすぐにその異変を感じ取る姿を見て、無視をされる＝悲しいということは大人も子供も同じで、この頃からしっかり人間関係が育っているのだということも知りました。子どもの行動や仕草の一つ一つには意味があること、そして、そこにしっかりと目を向け見逃さないようにすることの大切さを学びました。また、アタッチメントの大切さを学びました。

2つ目は、緩やかな担当制です。少人数で落ち着いた環境を作り、特定の保育者がじっくりと子どもにかかわることで、愛着を形成したり、保護者との信頼関係もぐんと深まっていき、よい保育、理想の保育だと思いました。また、担当制にすることで、「待っててね」という声掛けが「待ってるよ」に変わる余裕のある保育は保育をするにあたりとても大事なことだと思います。その一方で、担当の保育士がいない時や、年度が変わる時など、その1年で培われた愛着関係が深ければ深いほど、子どもたちの不安は大きいのだろうなと感じました。私の園では担当制という保育ではないが、一人ひとりにしっかりと目を向け、気持ちに余裕もてる保育を目指していきたいです。

最後になりましたが、この研修で学んだことを明日からの保育に繋げ、より良い保育を心掛けて頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。



(記録 ゆうかり子ども園 北元 睦美)